

# 第5学年 家庭科学習指導案

奈良教育大学附属小学校

教諭 平野 江美

## 1 題材名 「ナップザック」

## 2 題材目標

- ナップザック製作に必要な材料や手順、目的に応じた縫い方が分かり、製作計画について理解する。  
【知識・理解】
- 日常生活で使用できるためにナップザック製作の計画を考え、丈夫にするなど工夫することが出来る。  
【思考・表現・判断】
- 布を用いて丈夫なナップザックの製作を行うことを通して課題解決に向けて主体的に取り組んだり改善したりして工夫しようとしている。  
【主体的に学習に取り組む態度】

## 3 題材について

### (1) 題材観

本題材では、小学校学習指導要領家庭編で示された「生活を豊かにするための布を用いた製作」として、ナップザック製作を行う。12月に予定されている和歌山学習旅行でバスに積み込む荷物をひとまとめにするのに使わせる予定であり、子どもたちにとって製作目的がはっきりとしているものである。また、主たる材料である布は、キルティング布を各家庭で準備するので、準備（材料購入）から製作、使用までの流れが子どもに見えるものとなっている。

袋物にはさまざまな形がある。形状だけでなく、素材にもさまざまあり、それらの組み合わせで用途が変わったり耐久性が変わったりする。

子どもたちが学校生活で使っている袋物の中で、多くが1年生のころから使っているものには、織布ではないがランドセル（背負うもの）、1年生の時に当時の6年あいぼうからプレゼントされた「体操服袋」（巾着型）、音楽の授業でファイルや教科書、リコーダーなどをひとまとめにして持ち歩く「音楽バッグ」（手提げ型）がある。

その中で今回は、ランドセルのように背中に背負い、体操服袋のように口がひもで開閉できる「ナップザック」を製作させる。背負うということは、活動の際に両手が開くということである。ひもで口が開閉できるということは、中のものが容易には外に出にくいということになる。子どもたちが目前に迫った和歌山学習旅行の活動を想定してその形のよさに気づきやすいのではないかと考えられる。

また、素材にキルティング布を使わせることは、布の厚さが丈夫さにつながることに気づかせやすくなると考えられる。薄い布の方が縫いやすく、使用しないときには畳みやすいが、丈夫さに劣る。さらに軽い紙やビニルの素材となると縫えないし、耐久性がさらに劣る。

自分たちが使用する目的を意識して製作すると共に、身近な袋物にも目を向け、それらがなぜそのように作られているのかを考えることは目的に応じたものの使い方にもつながっていくと考える。

### (2) 児童観

入学時からほぼ全員がランドセルまたはリュックサックを背負って登校している。リュックサック

を使用している子どもは、荷物の重さからより軽いものを求めてランドセルから変えている。

また、手提げ型の音楽バッグを1年生から使用しているが、口が閉まらない型であるため、増えていくプリント類がうまくファイリングできなかつたり、リコーダーがきちんと入らなかつたりして教室での片づけの際に困っている子どもがいる。口さえ閉まれば、と感じている子どももいるようで、ファスナーで開閉できる袋に替えた子どももある。

ミシンぬいについては、興味をもって取り組むと共に、手縫いより丈夫であると感じた子どもが多い。一方で家庭にミシンがない子どもも多いので、ミシンの良さを感じると共に手縫いでも丈夫さを追求できると1学期の返しぬいの学習で理解させた。

また、ナップザックを作ることは、1学期の手縫い学習で材料購入の都合もあり示している。子どもたちは夏休み中に布を家庭で用意してきた。柄（模様）に着目して購入した子どもが多いが、中には、保護者と相談しながらより丈夫そうな表布のものを選んだと話す子どももある。一方で、サテン地などの摩擦に弱そうな布を選んだ子どももいる。これからの活動で製作や使用を重ね、素材についても目を向けられるようにしていきたい。

### (3) 指導観

まず、「ものを運ぶ」ということについて考えさせたい。ものを運ぶには、袋だけでなく、箱、ひもで結わえる、布（風呂敷）で包む、といった方法があることにも気づかせ、その中で現代は袋物を使うことが多いこと、それは形が作られているため、便利になっていることを体験から学ばせていく。ものを運ぶ、という視点で自分の身の回りの袋物を見直させる。布製のかばん（バッグ）から、ビニル袋までさまざまな形や大きさ、素材のものにであわせる。

次に、ナップザックを作ることを示す。ナップザックに近い形である自分の体操服袋を観察し、5年間使っているが使うことができている理由を探らせた。合わせてナップザックの見本も提示し、素材の違いなどに気づかせ、キルティング布を使うことの意味を理解させたい。

同時に紙または不織布で模型を製作させ、縫い方に対して見通しを持たせると共に、「丈夫」にするためには何に気をつければよいのか、実際にものを入れさせるなどして気づかせたい。模型は布にしないことで布であることの良さにも合わせて気づかせたい。

ナップザックのよさや形に見通しが持てたところで製作に入る。和歌山学習旅行に持っていくという目的だけでなく、実際に使用することを想定させ、丈夫さが大切になることを意識して製作できるようにする。体操服袋だけでなく、音楽バッグや制服のポケットなど、力がかかる場所には重ね縫いや当て布など、丈夫になる工夫がされている。それらにも気づかせながら、自分たちの知っている技能や技術でできる工夫を施させていきたい。

完成後、和歌山学習旅行だけでなく、日常の生活にも使用させた後、使ってみて便利だったかどうか、これからのくらしにも使えるかどうかを考えさせる。布製品であり、くり返し使用できたり丈夫であったりする一方、使用具合によってはほつれも生じる。その時にどうするのか、廃棄して新しいものを求める、自分で修繕しようとする、大人を頼る、さまざまな解決方法があるだろう。自分で作ったものだからたくさん使おうとする子どももいれば、使わずに残しておきたい子どももいる。それぞれの思いの中からこれからの自分たちのくらしを踏まえた選択ができるよう、意欲を高めたい。

○ この題材で働かせる ESD の視点

- 多様性…「袋」(ものを包み運ぶもの)には、さまざまな素材や形状があり、目的や場合によって変えることができるということ
- 有限性…布で作られている袋は、何回も使えることからビニル袋や紙袋とは違うということ、

○ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- 未来像を予測して計画を立てる力…製作した

○ この学習を通して育てたい ESD の価値観

- 自然環境、生態系の保全を重視する。…布は紙やビニルと違ってくり返し使うことができること。
- 人権・文化を尊重する。…使用の方法や素材の選択など個による違いを認めること。

○ 達成が期待される SDGs

- 7 エネルギー
- 12 生産と消費
- 14 海洋資源
- 15 陸上資源

#### 4 題材の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① ナップザック製作に必要な材料や手順が分かり、製作の計画を理解している。 ② ミシンの直線縫いや手縫いなどを用いて目的に応じた縫い方を理解し、適切に作業している。	① ナップザック製作を計画したり製作したりすることで丈夫な作品に仕上げるなどの課題を見出し、解決の方法を考えている。 ② 布で製作することのよさや課題について経験から考え、身近におけるとりくみを調べたりまとめたりしている。	① 自分の持ち物からナップザックの構造を考え、丈夫に縫うための方法を主体的に考えようとしている。 ② 丈夫なナップザックを製作し使用するという目的を意識して製作しようとしている。 ③ 製作した作品やそのほかの袋物を使用することで意味を考えてくり返しものを使おうとしている。

#### 5 題材の指導計画 (全 12 時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 「ものを運ぶ」さまざまな方法について考え、身近な袋物をさがす。(1時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 抱えるだけでは落とす。</li> <li>• ひもで結わえたり布で包んだりする。</li> </ul>	○ 体操服袋、音楽バッグ、ランドセルなど自身の持ち物からさまざまな形状に気づかせるようにする。	(ウ) ①

<ul style="list-style-type: none"> <li>箱が便利だが形が限られる。</li> <li>袋だと変形もして便利。</li> </ul>		
<p>2 体操服袋やナップザックを観察し、つくりや材料を調べる。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひもを引くだけで口が閉められる。</li> <li>ナップザックは布が厚いから丈夫そうだ。</li> </ul>	<p>○ 自分の体操服袋が入学後すぐから今まで使えているのはなぜか、という視点で考えさせるようにする。</p>	(ア) ①
<p>3 紙や不織布でナップザック模型を作り、作られ方や丈夫に縫いたい部分を考える。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細長い布を半分に折って縫っているから底に縫い目がない。</li> <li>ひもを通す部分はどうするのだろう。</li> <li>紙だから口を広げると破れる。</li> </ul>	<p>○ 布との違い(布端の処理や破れやすさ)にも気づくことができるようにする。</p>	(ア) ①
<p>4 「丈夫さ」を追求してナップザック製作をする。(8時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重ね縫いをすれば、丈夫になるはず。</li> <li>模型は口を広げると破れたから、布でも同じなのではないか。</li> <li>重ね縫い以外に丈夫な縫い方はないか、調べてみよう。</li> </ul>	<p>○ 体操服袋を手本の一つとして丈夫な袋になる方法を見つけさせる。</p>	(ア) ② (イ) ① (ウ) ①②
<p>5 自身はこれからどのようにナップザックを活用していきたいのか考える(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナップザックを買いものに使う。</li> <li>入れる物に合わせて袋を変える。</li> <li>自分で直してくり返し使う。</li> <li>きれいにしておきたいから使わない。</li> </ul>	<p>○ 布製品なのでくり返し使うことができる一方破損もおきること、その時に自分はどうするのか(廃棄・修理)を考えさせる。</p>	(イ) ② (ウ) ③